

2026年5月19日

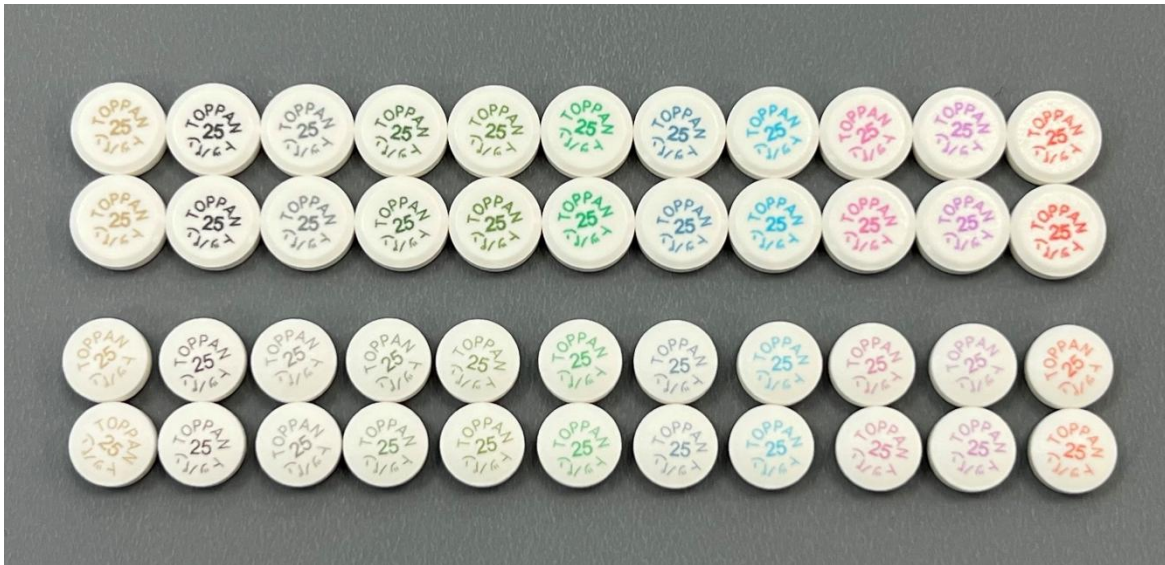
TOPPAN 株式会社

**TOPPAN、医薬品用のフルカラーバリエーション錠剤インキを提供開始**  
耐光性と安全性を有したマゼンタ色の錠剤用インクジェットインキを開発  
フルカラーバリエーションの実現により、調剤業務効率化や服用間違いの防止に貢献

TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:野口 晴彦、以下 TOPPAN)は、医薬品用のフルカラーバリエーション錠剤インキ(以下 本製品)を2026年5月19日より提供開始します。

今回、高い耐光性(※1)の確保が困難であった三原色の1つであるマゼンタの錠剤用インクジェットインキを開発したことで、他の三原色であるイエロー、シアンと組み合わせると多彩な色表現(フルカラー)が可能になりました。これにより、錠剤に印刷されている文字の視認性や識別性が高まり、調剤業務の効率化や患者の服用間違いの防止に貢献します。なお、本製品は提供開始に先立ち、日本で初めて(※2)フルカラーバリエーションインキとして医薬品の錠剤に採用されています。

また、本製品は、2026年5月20日(水)から22日(金)まで開催される「第28回インターフェックス ジャパン」(会場:幕張メッセ)のTOPPANブース(7ホール 小間番号35-40)にて展示します。



フルカラーバリエーションのインキを使用した錠剤イメージ

## ■ 開発の背景

近年、医薬品の錠剤への印字においては、ひらがなやカタカナといった日本語表記が可能なインクジェット式印刷の導入が進んでおり、視認性や識別性を高めるため多様な色の錠剤インキのニーズが高まっています。しかし、口に入れても安全な錠剤インキは耐光性の確保が困難で、中でもマゼンタの錠剤用インクジェットインキは光を受けると色が薄くなる性質を持つため実用化が難しく、色の種類が限られていました。

TOPPAN は錠剤用インクジェットインキのサプライヤーとして10年以上、錠剤インキを提供してきました。今回、エレクトロニクス事業で培ったインキ処方技術や、生活・産業事業で培った飲料充填の衛生・品質管理のノウハウを活用し、耐光性を有するマゼンタの錠剤用インクジェットインキを開発。これにより本製品が提供可能になることで、薬剤師による一包化(※3)の確認業務の効率化や、高齢者の服用間違いのリスク低減に貢献します。

## ■ 本製品の特徴

### ・耐光性を有するマゼンタの錠剤用インクジェットインキ

マゼンタの錠剤用インクジェットインキは従来、色素の耐光性が低いためインキ成分の最適化が難しく、耐光性の確保と安定生産との両立が技術的に困難でした。今回、インキ成分の最適化に加え、精製方法の工夫と独自設計による印刷性能と耐光性のベストバランスを追求したことでマゼンタの錠剤用インクジェットインキを実用化しました。

### ・フルカラーバリエーションが可能

マゼンタを開発したことで、色の三原色であるシアン、イエローと組み合わせることで多様な色の表現が可能です。色を組み合わせることで 10mg、20mg という用量表示による識別性や、色付き錠剤に対して補色(※4)を用いた視認性の高い印字を実現する他、コーポレートカラーの表現などの色調ニーズに対応します。

### ・高度な耐光性を実現し耐湿性も保持

医療業界に求められる高い耐光性を実現しながら、耐湿性(※5)も保持しています。太陽光や蛍光灯にさらされても印刷内容が消えにくい高い耐光性と、空気中の水分の吸収を妨げる耐湿性を備えることで、長期間保存された薬でも識別性を確保します。

## ■ 今後の目標

TOPPAN は、本製品を国内外の製薬メーカーに向けて展開し、インキや包装など錠剤関連受注を含め 2028 年度までに 10 億円の売上を目指します。

## ■ TOPPAN グループのサステナブルブランド「SMARTS™」について

### ・サステナブルな未来に、スマートな選択を

「SMARTS™」は、パッケージを起点とした TOPPAN グループのサステナブルブランドです。パッケージで培った技術・ノウハウに、マーケティング・DX・BPO などのリソースを掛け合わせ、バリューチェーンに沿った最適な選択肢を提供します。TOPPAN は、「SMARTS™」が持つ多彩なソリューションで、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会の実現に貢献します。



URL : <https://www.toppan.com/ja/living-industry/packaging/sustainability/>

※1 耐光性:日光や蛍光灯などの光にさらされた際に、薬の成分が分解、変色、または劣化するのを防ぐ性質。医薬品規制調和国際会議ガイドライン準拠試験(光安定性)の結果、印刷部の変色が一定基準以下であることを確認しています。

※2 2026年5月日本国内における錠剤用インクジェットインキにおいて、当社調べ。

※3 一包化:服用するタイミングが同じ複数の薬を、1回分ずつ1つの袋にまとめる調剤方法です。

※4 補色:色相環上で正反対に位置する色の組み合わせです。例えば、黄色と青紫、オレンジと青などがあります。

※5 耐湿性:梅雨などを想定した高温高湿環境にさらされた際に、印字された文字やマークの滲みや消失を防ぐ性質。試験の結果、印刷部の変色が一定基準以下であることを確認しています。

\* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。